

## 最近の韓国・中国・台湾経済情勢について

### **【今週のチェック・ワード】**

#### **【IMFの見る韓国経済について】**

韓国の財界人は、多分、「IMF」という言葉には、あまり良い響きを感じていないものと思います。

1997年に発生したアジア通貨危機のことを韓国では、「IMF危機」と言う人もおり、通貨危機の後、IMFの指導を受け入れざるを得なくなった当時の韓国を思い出すことを嫌がる人もいます。

また、だからこそ、「IMFの韓国経済に対する評価」には極めて神経質であると言えるかもしれません。

さて、こうした中、国際機関である、その国際通貨基金（IMF）は、ソウルの政府庁舎で会見を開き、今日1日から韓国政府などと進めた協議結果を発表しています。

IMFは今年の韓国の国内総生産（GDP）成長率見通しを3.2%とし、0.2ポイント上方修正し、韓国政府としても安堵しているものと思います。

先月10月に発表した見通しでは、今年と来年の成長率見通しをそれぞれ3.0%としていたものが上方修正されたものであり、安心感も増していることであらうでしょう。

そして、IMFの韓国経済に関するコメントでは、

「韓国の短期的な見通しは地政学的な緊張が高まったにも拘わらず改善されている。

経済成長は2016年下半期の鈍化以降、今年に入ってから回復傾向を見せている。」との見方を示しています。

また、経常収支の黒字規模は今年のGDPの5.6%となると予想し、韓国経済の弱点とされている、「家計債務（個人負債）」に関しては金融安定のリスク要因だが、現時点では政策が効果を出していると評価しています。

その一方、韓国経済は構造的な問題により、堅調で持続可能な長期成長に戻れなくなっているとの指摘も出ています。

そして、IMFは、

「韓国の潜在成長率は1990年代初期の7%から3%以下に下落した。」

とし、その理由として人口構造の変化や生産性の伸び悩み、所得の二極化、機会の不平等などを挙げているのであります。

更に、経済協力開発機構（OECD）加盟国の中で著しく高い高齢者の貧困率、若者の失業問題、不十分なセーフティネット、大企業と中小企業の二重構造などがこのような不平等を引き起こす主な原因であるとも指摘しています。

そして、これらの問題を改善するためには、拡張的な財政と緩和的通貨政策の基調を維持しなければならないとコメント、また成長の勢いがある現時点から正規雇用の柔軟性拡大をはじめとする労働市場の構造改革を推進しなければならないとも指摘しています。

今後の動向をフォローしたいと思います。

### **【台湾・中国・その他】**

—今週の台湾・中国—

[台湾]

中国本土の防衛ラインで「第1列島線」と言われる線を突破し、西太平洋に向かう飛行訓練を実施した中国本土・人民解放軍機がフィリピンと台湾の間のバシー海峡上空を通過する際、台湾の防空識別圏（ADIZ）に僅かに侵入したと報告されている。

台湾・中華民国空軍の戦闘機F16がこれに対して無線で警告すると、人民解放軍機は即座に台湾のADIZの外に出た模様である。

しかし、こうした動きを見ても、中国本土空軍は南シナ海で引き続き活動を粛々と行っているように見えておきたい。

[中国]

アジアに於けるインフラ開発案件は日中韓にとっては大きなビジネスチャンスであることは言うまでもない。

こうした中、マレー半島を貫く高速鉄道構想の入札が年末にも予定されている。

そして、日本と中国本土はここ数年、首脳外交などを通じて当該プロジェクトの受注に向けて、競争を増している。

中国本土の本件獲得に対する強い執着の背景には、単なるビジネスチャンスだけではなく、鉄道建設と言うインフラ開発を通じて、この地域への影響力一層拡大していこうとしていると見られている。

経済と政治・外交を絡ませた政策展開を行っていると思われる中国本土は、筆者にとってはしたたかに映る。

今後の動向をフォローしたい。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. ミャンマー情勢について
2. 中朝関係について
3. ASEM外相会議と北朝鮮問題について
4. 米国の北朝鮮に対するテロ支援国家指定と中国本土について
5. ミャンマーに対する米国の姿勢について
6. マカオ情勢について
7. パキスタン情勢について
8. 中朝関係について

—今週のニュース—

1. ミャンマー情勢について

人権問題を扱う国連総会（193カ国加盟）の第3委員会は、少数派イスラム教徒・ロヒンギャが迫害され、隣国・バングラデシュで難民になっている問題について、ミャンマー政府に、現在、進行中の掃討作戦を止めることなどを求める決議を賛成135カ国で採択している。

本件を背景にアウンサンサーチー最高顧問の実力、真価が問われる事態となってきた。

今後の動向をフォローしたい。

尚、この問題に関しては、ミャンマーとバングラデシュの両国政府はロヒンギャの帰還を進める

合意書に署名している点は付記しておきたい。

また、但し、帰還の具体的手続きや期限などで合意に至っていない模様であり、今後も協議が続けられると見られる点も留意しておきたい。

## 2. 中朝関係について

中国本土の中国共産党の特使として、習近平総書記は宋部長を北朝鮮に派遣した。

そして、宋部長は20日に訪朝の日程を終え、帰国した。

北朝鮮の対応に非礼

があった訳ではない。

しかし、一言で言えば、「儀礼的な対応」であったと言え、中国本土が少し北朝鮮に歩み寄り、事実上の誠意を示したことによる、「中朝関係の改善」といった状況は生み出せていないものと見られる。

冷却化していた中朝関係の大幅な即時改善は未だに難しそうである。

今後の動向を注視したい。

## 3. ASEM外相会議と北朝鮮問題について

アジア欧州会議（ASEM）外相会合が閉幕したが、その中で、北朝鮮の核実験や弾道ミサイル発射を強く非難する議長声明を発表している。

即ち、北朝鮮に対して、国連安全保障理事会の決議に無条件で従うことや核・弾道ミサイル計画の放棄などを求めている。

北朝鮮包囲網は少しずつ拡大してきている。

## 4. 米国の北朝鮮に対するテロ支援国家指定と中国本土について

米国のトランプ政権は、北朝鮮を「テロ支援国家」に再指定したことはご高承の通りである。

そして、更に米国・財務省は米国独自の追加制裁を発表している。

その中で、米国は、北朝鮮と取引がある中国本土企業数社を含む十数の個人・団体が制裁対象となっている。

中国本土政府の反応なども注視したい。

## 5. ミャンマーに対する米国の姿勢について

米国のティラーソン国務長官は、ミャンマーでの少数派イスラム教徒ロヒンギャに対する迫害問題について、「民族浄化に等しい。」との主旨の非難声明を示した。

米国政府は迫害に関わったミャンマー軍や治安部隊の関係者らに制裁を含めた対応を検討している。

ミャンマーの事実上の最高指導者であるアウンサンスーチー氏が如何なる対応を示すのか注目したい。

## 6. マカオ情勢について

マカオと区別行政区政府・統計調査局2017年10月の訪マカオ旅客数統計を公表したが、これによると、月次の旅客数は前年同月対比7.9%増、前月対比16.2%増となり、延べ288万8,716人となったと発表している。

10月初旬には中国本土の国慶節及び中秋節などの大型連休があったこともあり、訪問客数が増加傾向をキープしていると思われる。

また、これにより、本年1～10月累計の訪マカオ旅客数は2,672万3,755人となり、前年同期から4.6%増となり、また、このうち中国本土客は7.0%増の1,814万6,396人と、全体の67.9%を占めることとなった。

今後の動向をフォローしたい。

## 7. パキスタン情勢について

パキスタン政府は、2008年11月にインド西部のムンバイに於いて邦人1人も巻き込まれ、166人が死亡したテロ事件の首謀者とされるパキスタンのイスラム過激派組織「ラシュカレ・タイバ」の創設者である、ハフィズ・サイード氏の自宅軟禁を解除すると発表している。

同氏の逮捕を求めるインドは、こうした動きをパキスタン政府が示したことから、これは、「パキスタンがテロ支援の姿勢をとり続けている証拠である。」と反発しているが、パキスタン司法当局はテロ首謀者としての明確な証拠がないとして軟禁解除に踏み切ったとされている。

今後の印パ関係、そして米国の反応やパキスタンに近い中国本土の対応なども注視したい。

## 8. 中朝関係について

中国本土政府当局は、遼寧省・丹東と北朝鮮・新義州を結ぶ、「中朝友誼橋」の補修工事を当初予定より延期した。

北朝鮮にとっては、友誼橋は一つの大切な貿易ルートでもあり、今後の動向をフォローしたい。

## 【**韓国**】

—今週の韓国—

韓国政府・産業通商資源部と関税庁は、本年1月からの輸出額の累計（暫定統計基準）が5,012億米ドルを記録したと発表している。

1956年にこの貿易統計を開始して以来、最短期間での5,000億米ドル突破となっており、最近の輸出好調が裏付けられるデータとなっている。

今後の動向をフォローしたい。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. 日韓国防連携について
2. 米朝関係と韓国について
3. 大宇建設、インドビジネスについて
4. 三星SDS、中国本土ビジネスについて
5. ロシア極東ビジネスについて
6. 米韓軍事演習について

—今週のニュース—

1. 日韓国防連携について

筆者は、米国が主導しようとしている「日米韓防衛連携」は、中国本土の水面下の圧力を受ける

韓国政府の姿勢により、なかなか効率的な運用にまで至らないと見ている。

中国本土にとっては、「北朝鮮問題」を背景に日米韓防衛連携を取られることは、「潜在的な脅威」となりかねないと考えており、韓国に対して圧力を掛けているものと思われる。

尚、本件に関しては、ロシアも中国本土と同様の立ち位置にあると思われる。

そして、韓国をして、日米韓防衛連携に至らしめない、もう一つの背景には、「米国自身のこの地域に於ける影響力、威信の低下」にあるとも筆者は考えている。

こうした中、日韓両政府が昨年11月に締結した、防衛情報を共有する基礎となる「軍事情報包括保護協定（GSOMIA）」に関して、韓国政府は北朝鮮の核・ミサイル開発以外の情報交流を拒んでいる模様である。

今後の動向をフォローしたい。

## 2. 米朝関係と韓国について

アジア歴訪を終えて帰国した後、米国のトランプ大統領は、北朝鮮を、「テロ支援国家」に再指定すると発表している。

米国政府は1988年に北朝鮮をテロ支援国家に指定したが、ブッシュ政権時の2008年に解除しているが、再びテロ支援国家に指定するというものである。

尚、米国が北朝鮮をテロ支援国家に指定すると、人道目的以外の経済支援停止など独自制裁が科されることとなり、また米国のこうした方針に追随する国も出てこよう。

そして、現在、米国がテロ支援国家に指定している国は、イラン、スーダン、シリアとなっている。

こうした事態に対して、韓国では北朝鮮のリパーカッションが如何に出てくるのか、一部には懸念の声も持って見られている。

今後の動向を注視したい。

## 3. 大宇建設、インドビジネスについて

大宇建設は、インドでは最長となる海上橋の一部工事を、インド最大のコングロマリットである「タタ・グループ」と共同受注したと発表した。

今回受注したのは、ムンバイ港横断橋の第2工区であり、受注額は8億6,300万米ドルとなっている。

大宇建設はタタ・グループ傘下のタタ・プロジェクト（TPL）と合弁会社を設立する予定である。

その、出資比率は大宇建設が60%、TPLが40%、そして、合弁会社が工事の設計、調達、施工を行うこととなっている。

また、工期は4年半となっている。

今後の動きを注目したい。

## 4. 三星SDS、中国本土ビジネスについて

三星SDSは、中国本土・広州市の郵便局と物流サービス協定を締結し、中国本土の電子商取引（EC）向け物流市場に参入すると発表した。

三星SDSは早ければ、来年から広州の郵便局から航空便経由で海外に発送される速達郵便（E

MS) の配送の一部を代行することとなっている。

広州市郵政管理局は中国本土から海外に発送されるEC貨物の60%を扱っており、三星SDSは貨物機を手配し、貨物を海外の倉庫に輸送、輸送先の物流事業者を通じて、消費者に配達するという全過程を管理すると言うビジネスを担当することとなる。

今後の動向をチェックしたい。

## 5. ロシア極東ビジネスについて

大韓貿易投資振興公社(KOTRA)は、ロシア極東のウラジオストクに、「韓国投資企業支援センター」を開所したと発表している。

KOTRAはセンター開設の理由について、

「ロシア極東地域はユーラシアに繋がる経済・物流の中心地で潜在力が大きく、企業進出の拠点に相応しい。」

と説明している。

ロシアビジネスに関しては、韓国勢も強い関心を示しており、日本にとってはライバルとなり得る訳であり、こうした韓国の官民合わせた動きは注視する必要がある。

今後の動向をフォローしたい。

## 6. 米韓軍事演習について

米韓両国空軍は12月4～8日の間に、韓国上空で合同軍事演習を行うとしている。

そして、米韓の航空機約230機が参加する見通しである。

またその為、米国空軍のステルス戦闘機F22が8機、同F35が6機それぞれ参加することになっており、米韓の有事対応能力の向上を目指す見通しであるともされている。

今後の動向をフォローしたい。

## 【トピックス】

私にご縁があり、しばしば、熊本に伺います。

そして、熊本と言えば、くまモン 陣太鼓 からし蓮根 高菜漬け 馬肉等々、くまモン以外は美味しい食べ物が頭に浮かびます。

或いは、津軽じょっぱり、土佐 いごっそうと共に、日本三大頑固の一つに数えられると言われる、熊本の県民性を示す、「肥後もっこす」や、誰かが成功したり抜きん出ようとする、これを邪魔しようとする傾向が熊本県人にはあるという意味での、「肥後の引き倒し」などと言う言葉も有名ですよ。

私もそうしたものや言葉を知っていましたが、熊本の銘菓に、「朝鮮飴」というものがあるということに不覚にも最近まで私は全く知りませんでした。

更に、韓国に駐在したことがある私は、「朝鮮飴」と聞いて、朝鮮半島から日本に渡来した朝鮮半島の飴のことかとも思った次第です。

然るに、さに非ず。

「朝鮮飴」とは、熊本県の銘菓であり、餅米と水飴と砂糖を独自の製法で捏ね合わせ、片栗粉を塗った求肥飴の一種だそうです。

これを戴きましたが、その食感は餅に近く、美味しいお菓子です。

そして、これはもともと

「16世紀に、園田屋の開祖、園田武衛門により作られた当初は長生飴と呼ばれていた。」  
ということですが、文禄・慶長の役での朝鮮への出兵の際、当時の城主・加藤清正の軍はこれを携行して籠城中の兵糧として役立てたことから、朝鮮飴と呼ぶ様になったとのことでした。

そして、江戸時代中期まで、これは藩の買い上げで、製法は管理されて市販が許されていなかったそうで、代々の肥後藩主がこれを江戸幕府や朝廷への献上品、諸大名への贈答品として用いた「格」の高い銘菓です。

当初は黒砂糖と玄米を使用した淡褐色の黒朝鮮飴しかなかったと、お店の方から伺いましたが、現在は白砂糖と精白米を用いた白朝鮮飴が大半を占めているようです。

尚、1970年代前半には30軒以上が手がけて売上高の総計が10億円に達したそうですが、1990年代後半には2～3億円に減少し、業者も今や園田屋など数軒になっているとのこと、私もこの園田屋で朝鮮飴を買い求めました。

園田屋では現在、「柿球肥」と言う柿の風味を生かした朝鮮飴を販売しており、私もその朝鮮飴を戴きました。

今日は少し熊本に思いを馳せて見ました。

## 【今週の「街角のお話」シリーズ】

先日は東京、米子、名古屋、津、姫路、神戸、名古屋、東京と各地を駆け巡りました。

米子では、若き日に野球選手でいらっしやった境港市長様にもお目にかかり、野球の話に花を咲かせた後、地域経済の活性化に向け、境港港の利用拡大に向けて、地域企業の国際ビジネス拡大の為、鳥取県、境港市、そして松江市など県は異なっても利益を共に享受できそうな他市との連携を進め、例えば、地域企業の国際販売先拡大に向けた具体的なプログラムのお話を伺いました。

また、津では、地域の企業皆様方が早朝7時20分から集うモーニングカレッジに参加させて頂きましたが、地域の国際化に向けたプロジェクトを推進、海外のビジネスマンを三重県内の企業や施設を案内したり、三重県内の留学生の三重県企業への就職マッチングを拡大していることなどを伺いました。

そして、姫路ではお化粧替えした姫路城を見学、久しぶりの白鷺城巡りをしてまいりましたが、その前に明治43年創業の灘菊酒造にて工場見学をし、お食事も致しました。

地元の水で作った美味しいお酒に合わせた美味しい料理をセットにしてその品質の高いお酒の販売拡大に注力されている様子は、

「地域を大切にしつつ、地域経済の発展に努力している企業の代表選手のひとつ」として頼もしく映りました。

そして、その姫路から神戸に移動、「港町・神戸の夜」を久しぶりで満喫しました。

美味しい神戸牛はもちろんですが、神戸の魅力はやはり夜景でしょうか。

神戸港から眺める市内、その婿に見える六甲山などの観光資源は、国際都市の風格いっぱいでありました。

但し、地元の方々に伺うと、そうした観光資源がある割には外国人観光客も少なく、ブームに乗り遅れているとのコメントを伺いました。

私にとっては、神戸の異国情緒は居心地が良いのですが、外国人観光客にとっては、「日本らしさ」を満喫するにはやや魅力が不足しているのでありましょうか。

何れにしても2日半で駆け巡ったこれらの地域、それぞれの特徴を背景に、思いある人々が頑張

っていらっしやる様子を拝見し、大いに勉強して参りました。

### [英語で一言]

ここでは、英語を母国語としない私が英語を母国語としない多くの人々にも伝わるように、短文、平易な英単語を使って、気になる言葉、出来事を、短歌のように数行で示していくことを毎週トライするものであります。

またまた拙いコーナーの開始ですが、お付き合いください。

## **Factors Contributing to Japan's High Economic Growth and Current situation=日本の経済成長の要因と現在**

有名なるライシャワー博士は日本の経済成長の背景として、彼の著書の中で、幾つかのポイントを指摘しています。

その中の一つが、

「日本人はつらい仕事をやり抜く能力、教育水準や技術能力の高さ、政治的、財政的安定を維持する能力など、優れた特質を持っている。」

と言うコメントがあります。

多分、読者の皆様もこの指摘をご存知かと思えます。

しかし、翻って、私たち自身が今の私たちを見ると如何でしょうか？

本当につらい仕事を最後までやり抜いていますか？

教育水準、技術能力の国際比較は低下していませんか？

政策の視点から見た場合、政治的に安定と言えますか？

そして、国家財政は先進国の中でも最悪の状態です。

私たちは、ライシャワー博士が指摘したこのポイントすら失っているのであります。

日本の凋落、経済力低下の大きな背景の一つは私たち自身にあるのではないのでしょうか？

## **Factors Contributing to Japan's High Economic Growth and Current situation=日本の経済成長の要因と現在**

**Famous Dr. Reischauer gave us a number of reasons for Japan's remarkable economic growth in his book**

**And one of them is as follows;**

**“The hard-work ethics of the Japanese, their high levels of education and technical skills and their ability to maintain political and financial stability.”**

**As you may be aware it.**

**However do you think We Japanese still have such remarkable strong ability?**

**Are we still real hard-worker from the point of working quality?**

**Are our levels of education as well as technical skill still higher compared with other countries?**

**From the point of policy pursuing, is Japan's political situation still stable?**

**And I believe that Japan's financial situation is the worst level among the advanced countries.**



We cannot keep one of our strong ability which Dr. Reischauer pointed out.

One of the main reason of the decline of Japan's presence and economic power in the world is the decline of our ability itself, I think.

### 〔主要経済指標〕

#### 1. 対米ドル為替相場

韓国：1米ドル／ 1, 083. 53 (前週対比+11. 77)

台湾：1米ドル／29. 98ニュー台湾ドル (前週対比+0. 09)

日本：1米ドル／111. 47円 (前週対比+1. 15)

中国本土：1米ドル／6. 6025人民元 (前週対比+0. 0298)

#### 2. 株式動向

韓国 (ソウル総合指数)：2, 544. 33 (前週対比+10. 34)

台湾 (台北加権指数)：10, 854. 09 (前週対比+152. 45)

日本 (日経平均指数)：22, 550. 85 (前週対比-154. 05)

中国本土 (上海B)：3, 353. 821 (前週対比-29. 087)

以上

草の根の辻説法師を目指す

真田幸光